

平成24年度 公共事業事後評価調書

(区分) 国補・県単

1. 事業説明シート(1)

事業名		治水事業 [統一級河川整備事業 (国補)]		事業箇所	甲府市大里町		地区名	荒川		事業主体	山梨県	
(1) 事業着手年度	H5年度		(2) 事業期間	H5年度~H19年度		(3) 完了後経過年数	5年		(4) 総事業費	1,689百万円		
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等						
<ul style="list-style-type: none"> 荒川は、山梨県北部の長野県との県境に位置する国師ヶ丘に源を発し、御岳昇仙峡を経て、甲府盆地を北西部より南東部に向けて流下し、笛吹川に合流する延長34km、流域面積138km²の一級河川である。 荒川は、高度な土地利用が進んだ市街地内を流下しており、洪水発生時には甚大な被害の発生が想定されることから、河川改修や荒川ダム整備による洪水防御対策が進められ、確率規模1/80での整備が完了している。 一方、河川事業に対する社会情勢としては、住民の意識は単なる豊かさの追求から質的な豊かさを求める方向に変化し、まちづくりの面において豊かな自然、美しい景観、歴史や文化に対する関心が増大しているが、とりわけ水辺空間には水と緑の貴重なオープンスペースとして大きな期待が寄せられた。 このような背景から、荒川においても、治水機能の確保だけでなく、本来の川がもつ営力を生かした水際や、都市住民の身近な自然とのふれあいの場、憩いの場となる川づくりを目指した河川整備を行うことが必要となった。 												
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果												
【事前評価未実施】												
<input type="checkbox"/> 主要目標 <ul style="list-style-type: none"> 水辺の自然の保持と回復 多くの人々に親しまれる親水空間の整備 												
<input type="checkbox"/> 副次目標 <ul style="list-style-type: none"> なし 												
<input type="checkbox"/> 副次効果 <ul style="list-style-type: none"> なし 												
(7) 整備内容 (目標達成の方法)												
<ul style="list-style-type: none"> 新山梨環状道路二川橋上流から国道20号彩火橋区間の多自然護岸整備と高水敷整備 (事業延長2.5km) かくし護岸による低水護岸整備、高水敷整備 (散策路) 等 												

2. 評価シート (1)

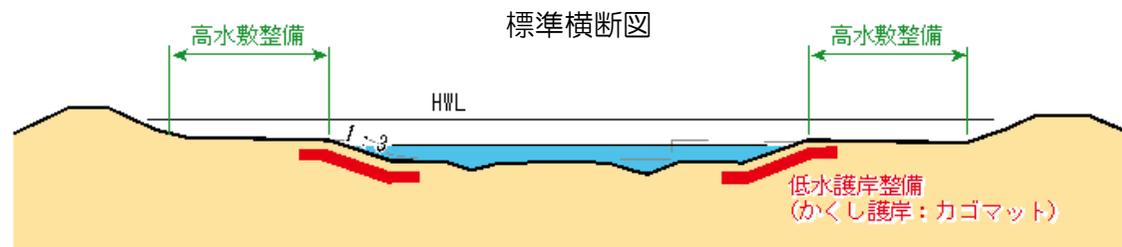
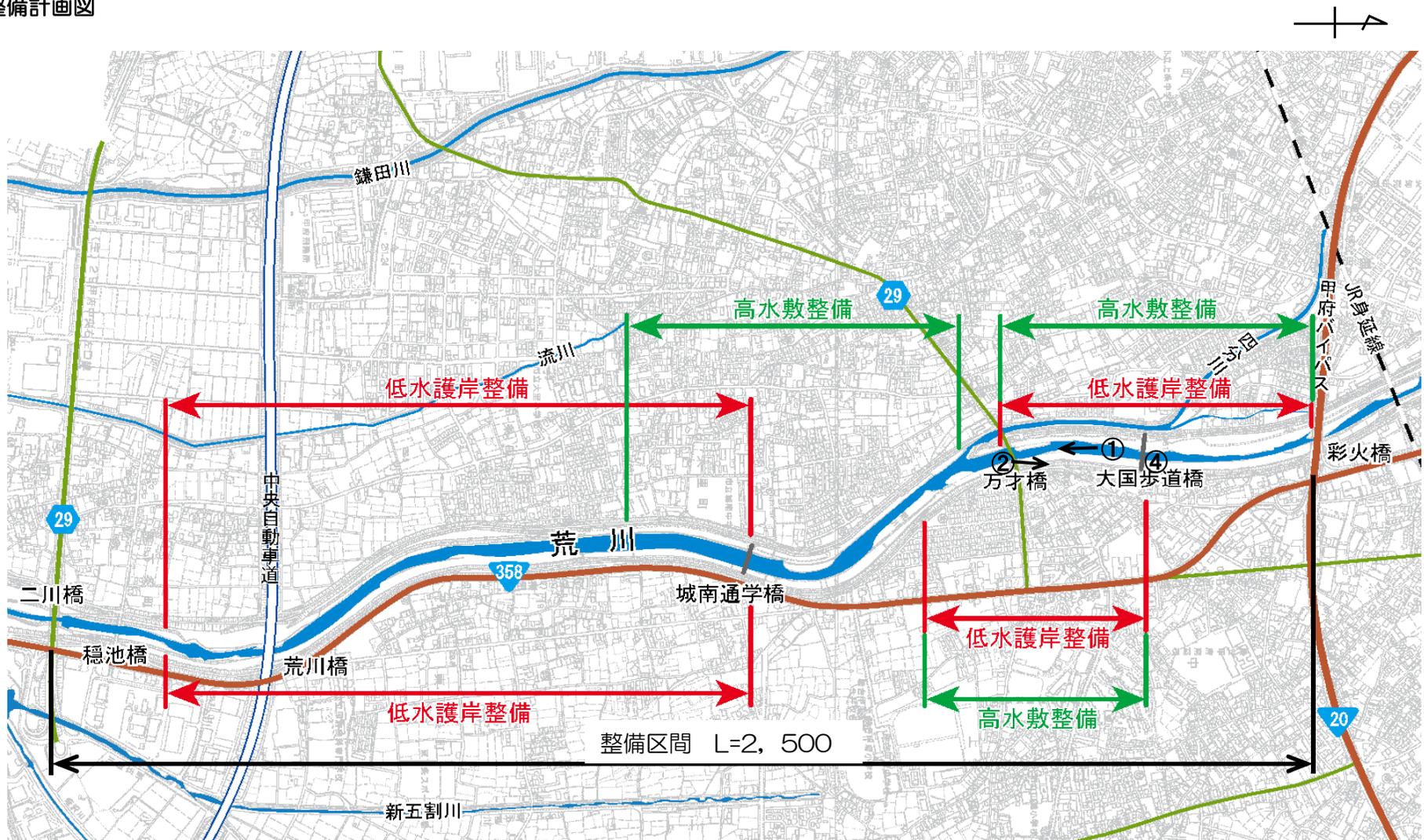
<p>(1) 事業貢献度 (良) 不良 ></p> <p>(理由) 低水路分の水際にはヨシなどの植生が繁茂しており、水辺の自然環境は向上している。 また、環境学習、イベント等でも高水敷や水辺が利用されており、河川環境整備に関するアンケートにおいても、自然の回復、親水性の向上、高水敷の利用性の向上が評価されている。</p> <p>① 主要目標</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:20%;">水辺の自然の保持と回復</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 従来のコンクリート壁による護岸と比較し、水際にはヨシやススキなどの植生が繁茂しており、良好な環境が形成されている。 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約35%の住民が「現在の荒川の自然は豊かである」と回答。（「豊かではない」の回答は約17% </td> </tr> <tr> <td>多くの人々に親しまれる親水空間の整備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約54%の住民が荒川を散歩やジョギング、サイクリング等の目的で訪れている。 高水敷の利用のしやすさについては60%の住民が利用しやすいと回答。 近隣の小学校では環境学習の場として、中学校ではロードレース大会のコースとして活用されている。 </td> </tr> </table> <p>アンケート実施概要</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2">調査内容</th> </tr> <tr> <td>実施期間</td> <td>平成24年2月28日(火)~3月13日(月)</td> </tr> <tr> <td>配布部数</td> <td>1,800</td> </tr> <tr> <td>有効回答数</td> <td>546</td> </tr> </table> <p>② 副次目標 ・なし</p> <p>③ 副次効果 ・なし</p> <p>④ その他の事業効果の発現状況 ・なし</p>	水辺の自然の保持と回復	<ul style="list-style-type: none"> 従来のコンクリート壁による護岸と比較し、水際にはヨシやススキなどの植生が繁茂しており、良好な環境が形成されている。 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約35%の住民が「現在の荒川の自然は豊かである」と回答。（「豊かではない」の回答は約17% 	多くの人々に親しまれる親水空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約54%の住民が荒川を散歩やジョギング、サイクリング等の目的で訪れている。 高水敷の利用のしやすさについては60%の住民が利用しやすいと回答。 近隣の小学校では環境学習の場として、中学校ではロードレース大会のコースとして活用されている。 	調査内容		実施期間	平成24年2月28日(火)~3月13日(月)	配布部数	1,800	有効回答数	546	<p>(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 (有) 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,830百万円</td> <td>1,689百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H5~H20</td> <td>H5~H19</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出</td> </tr> </table> <p>※B/CはCVMにより算出している。(CVMを適用した河川環境整備事業の経済評価の指針(案)) ここで、B(便益)の算定はアンケート調査によって集計。</p> <p>(要因変化の分析) 総事業費： 残土の有効利用などによりコスト縮減を図った結果、総事業費の低減が図られた。 工期： 事業費の集中投資により工期短縮を図った。</p> <p>(3) 事業実施による環境の変化 (有) 無 ></p> <p>① 自然環境への影響 ・低水路部の水際はヨシやススキなどの植物が繁茂しており、動植物の良好な生息、生育環境が形成されている。</p> <p>② 生活・居住環境等への影響 ・整備を行った高水敷や水辺拠点、環境学習、散策、各種イベントなどに広く利用されており、良好な水辺空間が形成されている。</p> <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況 (措置を講じた場合) ・なし</p> <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 < 有 (無) ></p> <p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,830百万円	1,689百万円	工期	H5~H20	H5~H19	経済効率性	費用	-	便益	-	B/C	未算出
水辺の自然の保持と回復	<ul style="list-style-type: none"> 従来のコンクリート壁による護岸と比較し、水際にはヨシやススキなどの植生が繁茂しており、良好な環境が形成されている。 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約35%の住民が「現在の荒川の自然は豊かである」と回答。（「豊かではない」の回答は約17% 																												
多くの人々に親しまれる親水空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> 河川環境整備に関するアンケート調査結果では、約54%の住民が荒川を散歩やジョギング、サイクリング等の目的で訪れている。 高水敷の利用のしやすさについては60%の住民が利用しやすいと回答。 近隣の小学校では環境学習の場として、中学校ではロードレース大会のコースとして活用されている。 																												
調査内容																													
実施期間	平成24年2月28日(火)~3月13日(月)																												
配布部数	1,800																												
有効回答数	546																												
項目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																											
総事業費	1,830百万円	1,689百万円																											
工期	H5~H20	H5~H19																											
経済効率性	費用	-																											
	便益	-																											
	B/C	未算出																											

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 無 〉</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり事業が完了したため、水辺の自然の保持と回復や多くの人々に親しまれる親水空間の整備事業という主要目標が達成され、自然環境への影響について、今後大きな変化が生じる可能性は低いと思われることから、今後の事後評価の必要性はないと考えている。 <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時期： 年度 ・ 方法： 	<p>(理由)</p> <p>自然環境や利便性の評価に関するアンケートを、あらかじめ設定した項目を選択して回答する手法を取っているが、具体的な評価理由を把握できない傾向にある。</p> <p>(具体的反映策)</p> <p>アンケート内容に、具体的な評価理由を記述できる欄を設けるなど、今後、同種事業を実施していく上での課題等を把握できるような調査手法を検討する。</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(既の実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
	<p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・なし

3. 添付資料シート(1)

○整備計画図



○事業着手前、完了後の工事写真

写真① 大国歩道橋下流の様子



事業着手前



完成後（高水敷整備）

写真② 万才橋左岸より上流の低水路の様子



事業着手前



完成後（低水護岸整備）

○高水敷・水辺利用の様子（イベント利用）



写真④ 大国歩道橋付近での大国小学生環境学習の様子



写真⑤ 城南中学生によるロードレース大会の様子
（荒川高水敷の散策路を利用）



写真⑥ 市民イベント「荒川よっちゃんばれウォーク」の様子
（荒川高水敷の散策路を利用）